

校友時報

平成4年12月22日
編集人兼発行人
秋田県能代市高橋2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 神大 兼堂印刷

あすから冬休み
あすから実質二十日
間の冬休み。この間
家族の一員、地域の一員
としての自覚を持って、
有意義な休みにしよう。

甲子園大会・明石大会

アベック出場を讀めて

野球記念碑を建立

この夏、硬式・軟式の両野球部が全国大会へのアベック出場を果たしたことを讀み、また能代高校両野球部の輝かしい戦歴を讀んで「野球記念碑」が建立され、その除幕式が開かれた。



十月五日(三)時から、新し選考、職員らが参列。神馬委
く出来上がった野球記念碑の
前で行われた除幕式には今年
の両野球部が全国大会出場派遣
委員長の前田恒成同窓会長を
はじめ、PTA、体育後援会、
両野球部OB会、父兄、両部
の黒御影石の台座の上に、ボ
ールとバットを型どったステ
ンレス製の造型が載せられて



(上) 建立された野球記念碑
(下) 除幕式風景

新会長に工藤君

(2F)

生徒会 改選 候補者選り難行



工藤 会長



斎藤 副会長



佐藤 副会長

立候補者が出そろった選出
が遅れていた新生徒会役員
の顔ぶれが、十月末になっ

てそろそろ決まった。
今年には会長、副会長ともに
自主的な立候補者がなかった

ことから、生徒役員選挙細
則にもつき、一年生の各々
ラスからの推薦による選挙

行われた。
その結果、会長、副会長と
もに立入りの決選投票とな
り、左のよに決定した。
会長 一B 工藤 雅夫
(次点 一F 斎藤 洋美)
副会長 一年
一B 佐藤 潤一
(次点 一E 葛西 康介)
同 二年
一C 斎藤 雅俊
(次点 一E 大宮 裕樹)
工藤君はこれまで副会長
を務めてきたが、生徒会活
動に見通しきつてから、実
のある活動が期待される。



肩を組む両団長

前庭整備

工事順調に進む

校訓碑も出来る



「至誠力行」の校訓を掲げ
伝統校らしい風格が備わった

昨春秋に本
校校舎前の田
い前の整備が期待されてい
るの買収が一
たが、十月中旬現在では完

了に近づいた。
工事は八月十七日からま
土木工事から始まり、新しい
道路、グリンベルト、ロー
タリーの設置、アスファルト
舗装、松竹の樹木の植栽、
電気工事等順調に進んでき
た。

今後の予定としては、石垣
のブロック工事、校門の移動
その他の工事が引き続き行わ
れるが、遅くとも来年一月こ
うまでには工事は終了するこ
とになっている。

すでに十月二十日からの
スクールの進捗には新しい
い通路が使用されているが、
酒落た舗道の乗り降りに生

アに近づいた。
工事は八月十七日からま
土木工事から始まり、新しい
道路、グリンベルト、ロー
タリーの設置、アスファルト
舗装、松竹の樹木の植栽、
電気工事等順調に進んでき
た。

今年センター試験は来月
十月十七日の同日金一
行われる。昨年度が一
週間ぐり下がったが、三年生
については今が正念場

今年現役生は、百七十九人
が受験する予定である。三年
生は去年年始の他は連日補
習、十四日結団式、十五日の
屋敷田向へ向かう。

今年センター試験は来月
十月十七日の同日金一
行われる。昨年度が一
週間ぐり下がったが、三年生
については今が正念場

今年現役生は、百七十九人
が受験する予定である。三年
生は去年年始の他は連日補
習、十四日結団式、十五日の
屋敷田向へ向かう。

今年センター試験は来月
十月十七日の同日金一
行われる。昨年度が一
週間ぐり下がったが、三年生
については今が正念場

鈴木選手の碑も 出場記念

八月、スペインのバルセロナ
で開催されたオリンピックに出
場した、自転車選手の鈴木裕
手(ハルコ)の活躍を讃える記
念碑が、野球記念
碑の北側に、鈴木
選手のお父さんで
ある本校の鈴木豊
治先生夫妻の寄
贈によって建てら
れた。(写真)
高三ノートル
五ノ、碑面はオ
リンピックの五輪マークと出場
種目などが刻まれた。
これで本校には、オリンピッ
ク出場記念碑が二つになった。



八木さん優秀賞受賞

「原子力の日」記念論文



八木 恭子さん

「原子力の日」を記念して
毎年行われている論文コンク
ールで、今回、二年F組のハ
木恭子さんの作品が優秀賞に
選ばれた。
このコンクールは今年で24
回目を迎える全国コンクール
で、主催は財団法人日本原子
力文化振興財団
表彰式は本校の二年生が修
学旅行中の十一月十二日に東
京豊ヶ関の内の東海大学学
表彰式は本校の二年生が修
学旅行中の十一月十二日に東
京豊ヶ関の内の東海大学学

友誼、開かれた。八木さん
は付録生先生とともに出席
として、今回、二年F組のハ
木恭子さんの作品が優秀賞に
選ばれた。
このコンクールは今年で24
回目を迎える全国コンクール
で、主催は財団法人日本原子
力文化振興財団
表彰式は本校の二年生が修
学旅行中の十一月十二日に東
京豊ヶ関の内の東海大学学



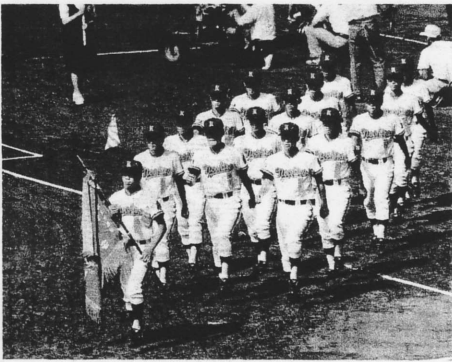
「ゆとり」は
生まれたか

「学校週五日制」の導入に
ともない、全国の公立学校
等でも土曜日が休業日となっ
て、四か月の月が経過した。五
日制の調査研究協力校となっ
ていた本校は、他校の月一回に
より一回の休業日が加わった
が、どうなるか、本当にゆ
とりは生まれたのだろうか。
明治五年に学制が制定され
て以来の日本の教育の大改革
だといわれる五日制の成果
を、たった四か月の間という
うのは間違っている。しかし、
新しい制度だからといって、
ひとつ二つ点検し、改善を
向上するに努力しなければ
ならない。

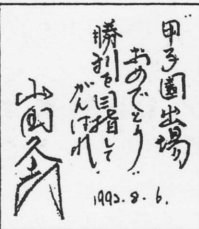
実感と言ってもよい。何
三年生である事柄は、何の
ゆとりも感じられない。特に
この数週間は模範試験の連続
で、もうクタクタである。せ
めて、日曜日は休みたい、な
ど言いつつ休日も出てくる始
末である。

三年担任の先生は「休
業日でもはた学校へ来て
いるが、授業をなくしてもい
い日に父兄を呼んで面接し
ていられるので、実質的には
休みが生まれた」と言っている
と聞かれた。

結局言えるところは、「やる
べきこと」を減らすという
はい、休業日を設けても
その休業日に働くことになる
だけだということである。日
本の教育改革は、ほんの二歩
を踏み出したにすぎないとい
う。だが、児童生徒に「ゆと
り」を与えようという目的は
正しい。



感激の表情で入場行進する本校チーム



山田元投手
激励色紙
元阪急ブレーブス投手
山田元投手は、本校野球部のために上のような色紙を寄せてくれた。伊丹市の宿舎を訪れ選手を激励してくれた。



校歌をありがとう

甲子園で一勝

宿願果たした能高ナイン

新聞部は、甲子園大会(明石大会)へ、派遣委員会の旗を受け延べ八人の部員がでかけ、現地で取材活動することができた。

甲子園大会では、大蔵孝生、板倉良の二人が伊丹市での練習へ選手として参加。翌八月十日の開会式の様子があわせて、同日大阪から学校へフアクシミリで速報。

六日から始まった軟式野球全国大会でも行い、渡部洋平、小杉山幸、土橋優美、大塚希子の四人が球場狭しと走り回った。スタンドの他で見聞きたことを下書きなど、その場で書くという現地報道である。このとき、速報性の高い、臨場感あふれる見聞が発信された。

フアクシミリで速報

校友時報

甲子園だより 1

実業する予定の日本海4号が自らの運休というハズレで、多岐路から新潟県津波市で大阪に着いた。取材班(新聞部2人、写真部3人)と迎えたのは、蒸気船「新大丸」の乗組員たち。朝七時に甲子園球場へ向かい、四番乗りで到着。開会式予行に臨んだ。

開会式予行、落ち着いた選手団大阪滞在の六日目のホテル暮らしとあって、いそいそと分業。取材班は「アガ部長」選手たちとあつちあつちと、甲子園の土を踏んだ。ときには、あつちあつちと、小杉山幸とあつちあつちと、甲子園の土を踏んだ。

開会式予行、落ち着いた選手団大阪滞在の六日目のホテル暮らしとあって、いそいそと分業。取材班は「アガ部長」選手たちとあつちあつちと、甲子園の土を踏んだ。ときには、あつちあつちと、小杉山幸とあつちあつちと、甲子園の土を踏んだ。

開会式予行、落ち着いた選手団大阪滞在の六日目のホテル暮らしとあって、いそいそと分業。取材班は「アガ部長」選手たちとあつちあつちと、甲子園の土を踏んだ。ときには、あつちあつちと、小杉山幸とあつちあつちと、甲子園の土を踏んだ。



声を限りに叫んだ「フリー フレー能高」

燃えた'92夏



オリンピックから野球大会へ

垂れ幕にぎやか

能代高校にとって、1992年の夏は、このほか「暑い夏、熱い夏」であった。

七月末から校舎に翻った垂れ幕は「七本うか、八本うか。このういっちは又とないかも」しれない。

選手名簿
部長 戸松 恭一
監督 佐々木 隆
投手 成田 俊
捕手 菊地 隆
一塁 山本 剛
二塁 山本 剛
三塁 山本 剛
遊撃 山本 剛
左翼 山本 剛
中翼 山本 剛
右翼 山本 剛
補捕 山本 剛
補内 山本 剛
補外 山本 剛

応援

生徒の80%が大阪へ

大きかった甲子園球場

七月二十九日、本校の甲子園出場が決まるや、学校全体はテンションの大騒ぎが始まった。

尽誠戦はバスで
第二回の対能高戦に、甲子園出場派選手は、バスで甲子園球場へ向かった。

続 甲子園だより

モスクワから熱い声援

硬式野球部OB
松本 幸也氏
牛丸幸也氏

甲子園出場派選手は、バスで甲子園球場へ向かった。

甲子園出場派選手は、バスで甲子園球場へ向かった。

(第37回)

さわやか、静かな闘志

甲子園の暑さにも能代の比ではなかったが、明石の暑さは想像を絶するものだった。肌を射すというより、肌についてしまつて取りつく、逃れがたい暑さ――そのような中で、くり広げられる軟式野球の試合のさわやかなプレー、明る

8/26(水)
新聞部
土橋 優美
小杉 泉子
FAX 0185-54-2

と云うけれど

二 女

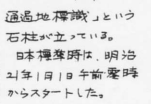
地方予選に勝利したハヤチムが
参加して、第1回金田高年高生野球
選手権大会が兵庫県西市町の泉宮明
意球場で今日から開幕した。

関西地方では、今日も如雪の空であつた。
るほど、寒い。それも、本敵の前試合
(京都市立東高校対新木作新市立戦)
の熱気より更に肌を冷たくする。日射
は文字通り肌を突き刺す。痛い。汗を垂
さした。球場の周囲の森の向うに
まるで、コンパスで描いたかと思われ
るほど、まきりした入道雲が、明
けの日に立ち上り、北月曜日に試合
を観戦しているように見える。

「入道雲は無料」。「アコラム1000円」
(販売する予定にないのは高校生のアパ
ルト)。立派する人々、数多いとは言さず、
スタンドの椅子が、炎山山多いに。泳ぎ
模倣する。なければ、スズバドの海賊も小
さい。偶然かも知れないが、女子のチアリ
イの持、ボンボンまで小さく、わい、
西明日、駅から乗ったタクシー。運転
手とて、今日球場で何かあるんで
すわ、と聞いて、今日まで、泳ぎな宣伝は
ない。しかし、高校生が自分たちの力で
やれることを、一杯やってみる。(愛は泳ぎ
は、やがて、中身は、最善に充満した。大の
は、やがて、これは、かみ、の、な、の、だ、

▶「子午線のまち」

明治43年^{1910年}「大日本中央標準時子午線」
 により、東経135度の子午線がこの町を貫く。
 それを示す天文科学館が球場のすぐうしろ
 にある。



▶ 「万葉のまち」
「源氏のまち」

明石は柿本人麿
や山部赤人によって万
葉集に詠れ、「源氏
物語」の舞台にもなったまち。

天離る 春の長道ゆ 恋みくれは
明石の門より 大和島見ゆ
柿本八麻呂

「海峡のまち」

峽。その海峡をへだてて淡路島がな
がる。あと5~6年で、明石海峡大橋と
いう橋が作られるそうだが、長さは3910m

ーシャリズムに毒されない
 本当の高校のクラブ活動のあり方が感じとられる。半数ぐらいの学校はプラスバンドや応援団員さえも連れているが、スタンダムも満員ではない。にもかかわらず、地区予戦を勝ち抜いた技には磨きがかかりあからさまではない静かな順志がうかがわれた。

同窓生が歓迎

甲子園大会同様、軟式野球部も秋田同窓会近畿支部の方々と、秋田県人会の方々から家族たちも、職場の方々の暖かい歓迎を受けた。
 本校よりには、在学中全日出張経験している岡、長谷川、岡コーチが加わっていたが、歓迎会に参加した同窓

ても、勝算は関係なく、同窓会の方々や県人会の方々から歓迎して下さるのだから歓迎して下さるの为本当に有難いと思う。又、故郷を遠く離れたおられるの秋田や学校情報を母校の活版に提供してくれる方々の声に応えたい」と話していた。

補	補	補	補	石	中	左	遊	二	一	一	捕	投	監	部
翼	堅	翼	擊	呈	呈	呈	呈	手	手	督	長			
山	佃	小	立	北	浜	芳	昌	鎌	長	塚	澤	京	谷	
內	原	藤	林	野	原	俊	山	岡	本	田				
亮	智	幸	良	宏	俊	靖	秀	一	久	雅				
太	裕	昌	秋	之	微	成	果	一	誠	也	客	主	昭	



総額一億一千余万円

予想を越えた寄付金

硬式、軟式両野球部の全国大会の派遣費用は、同窓会やPTAを中心として新たに結成された、甲子園出場派遣委員会の手で、大規模な募金活動が行われて集められた。

や本部の費用にあつた。またに残金が出たため、同窓会は記念事業や次回の派遣基金として積み立てられるようになった。

内訳は下記の通りである。

カメラも寄贈に

ミノルタの
納谷氏
新聞部・写真部へ

この結果、総額約一億二千七百二十六万円という、予想を上まわる金額が寄せられ、選手、一般応援生徒の交通費派遣にも対応して募金活動が進められた。

甲子園大会を前に、こうした大きな大会での使用にふさわしい、使い易く性能最高のカメラが寄贈された。しかも、新聞部写真部に一台ずつとラメーカ・ミフルタの新しい豪華な贈り物である。贈り主は松谷幹夫。新制八期生の納谷氏は、は勿論世界へとを馳せる。

▶ 剰余金の使途

1 記念事業	
① 硬式・軟式用観覧・用具室	8,000,000
② 記念碑	3,000,000
③ ピッチングマシン他	3,009,000
2 次期派遣基金	20,000,000
3 体育後援会への補助	2,122,875

開発理事をなさされた。同
開発先頭にして世界で初めて
の開発された一眼レフカメラの
オートフォーカスは、発表当
時業界に衝撃を与え、昭和61
年には科学技術庁賞も受
けた。

今回贈ってくださったのは
その自作「7700」の
後、更に改良が加えられた方
次のもに話った。

「新聞関係は、他校は報
道写真部員を専らたり、自
分ではカメラを扱なれない
人がたりするが、本校では
うい人が例年少ないので、
満足以上の写真が掲載でき
ないのが多かつた。その点が
解決されるを思われ、うれ
しくなりました」

甲子園だよ

No. 8

8/21
新聞部
小杉山 第三

甲子園会
 甲子園の味
 甲子園物にカネ割
 均無の場の下つた
 甲子園に格別だ
 行き帰りにみえなす
 とへりしなり食た
 駅弁、旨の、か遠く同を喜
 なるの、さなら、なけ
 なんとか話さへうさ
 思ふに大阪弁
 二、三秒、一息に承の
 えてうれしかた
 大阪弁
 駅弁と
 ころが甲子園
 あり
 スムンに立へ瞬間
 ころが、感概しと
 びて、また、感概しと
 びた、な、く、瞬間、に、見
 えた、が、予、想、は、あ
 なた、が、この、甲子園、す
 還、す、で、す、い、思、な
 大阪夏、五、年、校、は、い
 いた、ま、に、る、の、方、に、行
 私、産、は、免、追、に、脚、員、部、員
 加、す、思、持、を、声、け、聞、け
 (成田文子)
 甲子園で、真直に見て
 感動し、し、す、な、り、不、満
 し、行、か、れ、な、い、と、す、な、ら

[illegible]

